

# 袋井市出身の偉大な水利技師 鳥居信平ものがたり



鳥居信平が造った地下ダム (屏東県林辺溪)

大正3年、徳島県で土木技師をしていた信平は、当時、日本の植民地政策の代表的企業だった「台湾製糖(株)」の技師

## 鳥居信平 台湾に渡る

皆さんは、鳥居信平という人物をご存じですか。地球科学者で南極越冬隊長だった、鳥居鉄也氏の父にあたり、今から80年以上も前、日本の統治時代の台湾南部に、先駆的な地下ダムを築いた水利技師です。この度、鳥居信平氏の功績に対して、台湾屏東県の篤志家から袋井市に胸像を贈られることになりました。今回は、袋井市出身の偉大な水利技師・鳥居信平をご紹介します。

として台湾へ渡りました。

台湾の河川は、上流との落差が急なため、雨期には洪水が起きやすく、さらに、台風の通り道で、毎年のように、農作物に大きな被害が出ていました。また、乾期には川が干上がるなど、当時の農民は水の確保ができず、長い間、苦しめられていました。

このため、サトウキビの安定供給のために、土地改良や灌漑と排水システム

林辺溪に地下ダムを造ることを決めました。

地下ダムは、日本で見られる、川の表流水をせき止めるダムとは違い、地下水の流れをせき止める構造で、信平は、現地の人々の大切な狩り場や漁場に配慮し、生態系や自然を壊すことのないように設計しました。

工事は、大正10年5月から始まり、長さ328mのダムを埋設しました。ダムに集められた伏流水は、導水路を



◇鳥居信平(1883~1946)  
明治16年、周智郡山梨村(現在の上山梨)生まれ。少年時代を袋井で過ごし、金沢の四高に進学後、東京帝大(現在の東大)農科大学に入学。卒業後は農商務省農務局、徳島県技師などを経て、「台湾製糖(株)」に転職し、地下ダムの埋設に尽力。

## 地下ダムの埋設と 台湾の人々の暮らし

台湾に渡った信平は、すぐに水源、土壌、作物の用水量の調査を始め、インドやインドネシアなどの水利事情を視察。大正8年からは、農場開設のため、溪流のこつ配や伏流水の状態を克明に調査し、台湾南部の屏東県にある

通して送られ、支線から、小支線を通じて扇形の屏東平原(行き渡るように工夫しました)。

作業には、現地の労働者延べ14万人以上を要し、労働者には、日給62銭が支払われ、工事が終わるころには現地の人々の生活は大きく変わりました。また、彼らによってこの工事は、近代科学との最初の出会いでもありました。

大正12年に2,500ヘクタールに及ぶ農場が完成。豊水期は一日約25万トン、乾期でも約7万トンの農業用水と飲料水を供給し、この土地の開拓事業は、地域住民の生活向上に大きく貢献しました。

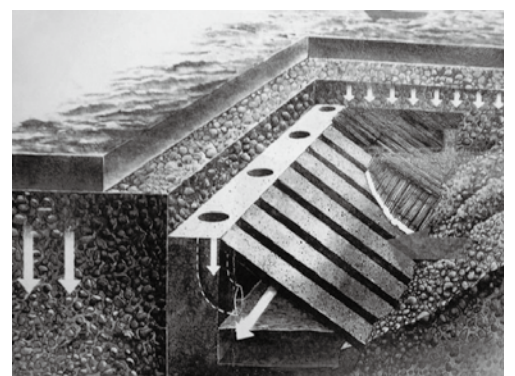
当時、伏流水をこのように大規模利用した灌漑施設は例がなく、極めてざん新たな試みだったため、昭和11年、農業土木の関係者として、初めて日本農学賞を受賞しました。

台湾南部では、今も20万人を超える人々がこの地下ダムの恩恵を受けて暮らしています。

近年、環境問題や水の危機が叫ばれるなか、信平が環境に配慮して埋設した地下ダムが改めて注目されています。

### 【参考文献】

「諸君」(文藝春秋)



地下ダムの断面構造